

努力と協力

浦安市立堀江中学校3年 ミーペ アヌジャ

人権はみんなが持っています。そしてみんなを守っていかなければいけません。人権というのは、人が生まれながらに持っている基本的で具体的な権利の総称が、人権です。一言に人権といっても、例えば高齢者についての問題や、障害者、いじめ、外国人差別、人種差別などたくさん問題があります。でもこれらの問題をすべて解決するためには、たくさんの人々の努力と協力が必要となってきます。

そもそも僕が、人権についてこのように考えるようになったきっかけは、小学校2年生のときにクラスメイトに受けていたいじめでした。僕は、外国人ということもあり、他のみんなとは、肌の色だったり、文化だったり、考え方だったり、違っていたので、「黒人はこの遊びは無理だ」など言われ、仲間はずれをされたり、名前について「変な名前」と言われたり、自分の中では、自分の家だったら、自分の母国だったら、なにも言われたいようなことばかり言われ、とてもつらかったです。しかし僕には、家族や先生といった僕にとっての心の寄り所が、あったのです。どんなにつらいことがあっても、その寄り所が僕の気持ちを理解してくれて慰めてくれました。そしてある日の放課後帰ろうとしていた僕に先生が、「みんなにちゃんと自分の気持ちを伝えてみたら」と勧められ、僕は先生と一緒にみんなに向けた手紙を書きました。僕は一生懸命にみんなにわかってもらえる文章を考え、「かけがえのない友達がほしい」という当時の一番の想いを、そこには書きました。そして先生に気持ちを伝えることを勧められ2週間が経ち、いざみんなに発表するときに、きました。僕は文章として書いたものに想いをのせて読み上げました。読みながらもみんなに伝わるか不安だったけど、読みあげるにつれて、みんな真剣に聞いてくれるようになり、そこから

は堂々と感情を伝えました。「かけがえのない友達がほしい」これを最後に伝えて終わらせました。するとみんなは1人1人周りに合わせるのではなく、心からの拍手が沸き上がりました。みんなのその真剣さから、気付くと僕は泣いていました。そうして周りからのいじめはなくなり、それどころかみんな僕の考え方や肌の色の違いなどの周りとの違いを理解してくれるようになりました。そして3学期になると、親の仕事の都合上により転校することになってしまいました。僕のことをもともといじめてきていた人たちも、やっと友達になれた時でした。僕にとってはすごく複雑な気持ちでした。転校は、前に居た小学校でそこには友達がたくさんいるはずなのに、つい最近まで、最悪な環境だった、この学校を離れるのが悲しいという転校してきたときとは真逆の悲しさが僕にはありました。そしていよいよ転校前の最後の学校となり、感慨深い気持ちでいっぱいでした、帰りの会の前には、僕のためにサプライズで、友達になったみんなから手紙をもらう僕はとても嬉しくて涙が出てきました。この最後の日僕は、やっと「かけがえのない友達がほしい」という想いであり、目標であったものが達成できたと感じました。この1年は今でも忘れられません。

僕のこの実体験のように、全ての人々が共通で持っている人権、個性を非難したりすることは他人の幸せを奪っているのと同じです。しかし、僕たちは最初に言ったように、いじめを受けないようにするために、自分の個性を理解される努力が必要です。または、自分が他人を苦しめないよう相手を理解する努力も必要です。そして、人と人との協力がある世界です。全ての人々の努力がこれからの輝く未来を築き上げていく第一歩だと思います。